
「地域とともにある学校づくり推進フォーラム」のための資料－ 2

- ① H24年度地域とともにある学校づくり推進協議会資料より
- ②文部科学省初等中等局学校運営支援担当部署での聞き取り資料より
- ③大分大学高等教育開発センター調査研究資料より

大分大学高等教育開発センター 教授 中川忠宣

【コミュニティスクールとは】

1. 考え方の基本→「学校評価」を基盤にした学校経営を行う

- (1) 問題を抱えている学校がそれを解決する（解決の一步を踏み出す）1つのツール（システム）である。
- (2) 熟議を通して「何がコミュニティスクールのテーマであるか」を明確・共有化する。
 - ①教職員全体の共有
 - ②学校と地域住民の共有→テーマコミュニティを作る
- (3) 学校経営の主体は学校長であり、校長の学校経営をやりやすくするために、地域住民の願いも反映させながら学校運営するための支援組織（学校運営協議会）を置くものである

2. コミュニティスクールの3つの要素

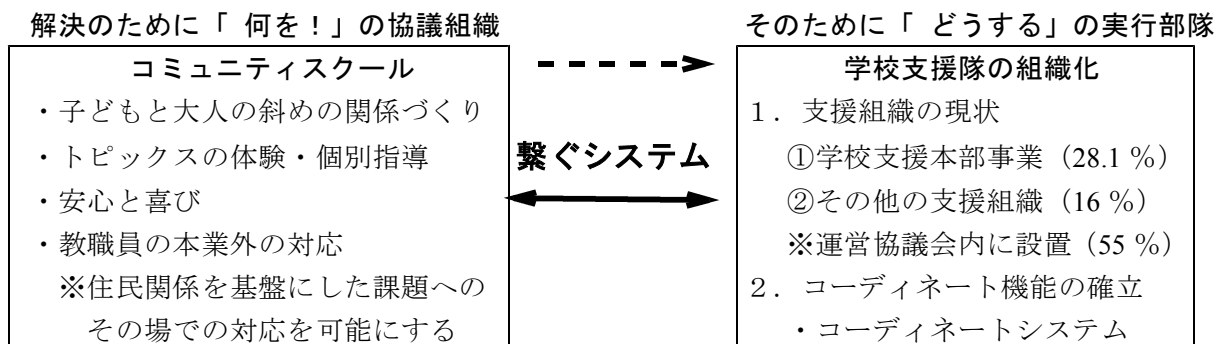
- (1) 熟議：原点→学校に何が必要なのか（求められているのか）
- (2) 協働：地域住民が責任をもつ
 - ①住民みんなで汗をかくことが必要
 - ②中核的ボランティアの存在が重要
- (3) マネージメント：学校組織の力を引き出す※現実的にはコーディネーターが必要
 - ①運営への支援によって本来の学校機能を引き出す
 - ②教職員の協働体制づくりへの支援

3. 地域のために地域住民の願いを反映させるシステム（仕組み）づくり

(1) 学校運営協議会の設置

- ①学校運営に関する協議組織である・・・「何を！」
- ②学校教育活動支援とのセットというシステムが重要・・・「どうする」

(2) 「1つのツールとして」という考え方



4. 学校の役割と住民の役割の明確化

- (1) 両者の関係の日常的なつながりのシステム作り
- (2) 継続できる体制づくり※住民は代わらないが、教職員は短期間に代わる（異動）
- (3) 教職員の負担（多忙化）にならないこと（「多忙化」の定義や意識についての共通認識）

【コーディネートシステムの整備】

1. 人材の発掘と確保と支援システム

- (1) コーディネートシステムづくり
- (2) コーディネートチームづくり
 - ①コーディネーターの複数化
 - ②専任と専任を支援するコーディネーター等の体制

2. 教職員とコーディネートチーム（システム）との連携システム

【教育行政として押さえるべきこと】

1. 教育委員会のリーダーシップが重要

- ①教育行政が目指すものを示すこと
- ②心配事、基本事項、計画等は条例で規定する
- ③小中一貫教育の推進と連動させた推進が効果を発揮する
- ④学校評価（内部評価や外部評価）と連動させた推進が必要

2. 柔軟なコミュニティスクール（システム）づくり

- ①地域・学校の現状・課題に沿った多様な形がある
- ②子どもも大人も、学校も地域も、みんなが元気になる

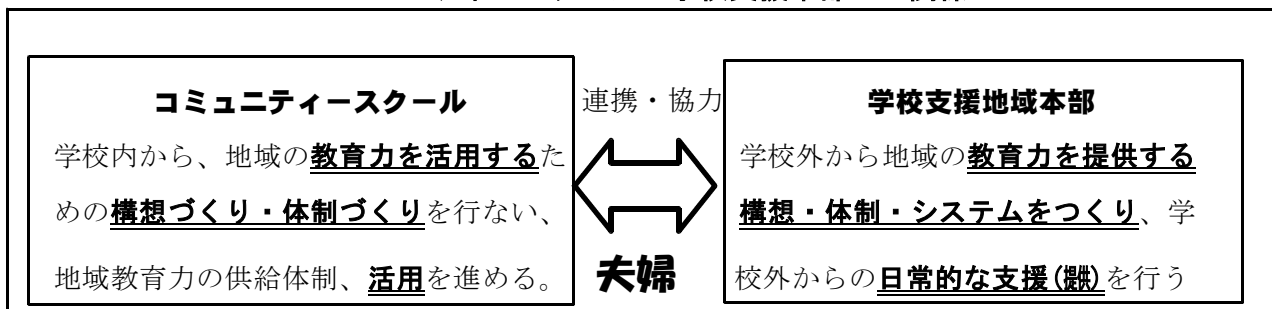
3. 課題解決のためのコミュニティスクールの学校運営は

- ①サポーター型→②連携型→③協働型へと発展させることが望まれる

【コミュニティスクールの成果】

1. 子どもへの効果：基礎学力の向上やいじめ・不登校、児童生徒の自主性
2. 学校への効果：地域住民との共同体制、授業力の向上、教職員の意識の共有やネットワーク
小中一貫教育の推進
3. 地域住民への効果：大人同士の繋がり、地域づくりと活性化、親の子育て意識の向上

＝コミュニティスクールと学校支援本部との関係＝



＝豊かな学校経営の方策＝

＝これからの社会教育の役割＝

【資料】 新しい学校運営（コミュニティースクール）の創造

参考：玉川大学教職員大学院教授 小松郁夫

